慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	カントの超越論的観念論についての集中講義II : 2010年3月3日 三田キャンパス東館4Fセミナー室5日 西校舎525B教室
Sub Title	Kant's transcendental idealism in focus part II
Author	植村, 玄輝(Uemura, Genki)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.12, (2010. 6) ,p.5- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000012-0051

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

カントの超越論的観念論についての集中講義 II
Kant's Transcendental Idealism in Focus Part II

2010 年 3 月 3 日　三田キャンパス東館 4F　セミナー室
5 日　西校舎 525B 教室

2010 年 3 月 3 日および 5 日に、哲学・文化人類学班、倫理・情報班の主催により、Denis Schulting 教授（オランダ、アムステルダム大学）を迎えた連続講演「Kant's Transcendental Idealism in Focus Part II」が三田キャンパスにて開催された。本講演は、2009 年 12 月の Part I（Lucy Allais 教授による連続講演）と対をなすプログラムの一環であり、その目的は、カントの超越論的観念論の意義を、哲学史・哲学的観点から問い直すというものである。Schulting 教授は、第一回の講演会において、カントの超越論的観念論の中心的主張である「物自体」と「現象」の区別の解釈に関する近年の論争を、膨大な関連文献を踏まえつつ批判的な観点から概観した。また、第二回講演では、『純粋理性批判』のなかでもとりわけ難解なことで知られる「カテゴリーの超越論的演繹」について、Schulting 教授の解釈が提出された。両講演とも活発な議論を引き起こす刺激的なものであり、また、カント哲学の検討を通じた論理と感性の問題へのアプローチの可能性をおおいに感じさせるものであった。（植村玄輝）

Under the organization of the Philosophy and Cultural Anthropology Unit and Logic and Informatics Unit, a series lecture of Professor Denis Schulting (University of Amsterdam) on Kant's transcendental idealism was held at Mita campus.

証明論ワークショップ

A Proof Theory Workshop (with Lecture Series by Grigori Mints)

（2010 年 3 月 17-18 日　三田キャンパス北館大会議室）

2010 年 3 月 17 日・18 日に Grigori Mints 教授（米国、スタンフォード大学）を招いた証明論ワークショップが行われた。本ワークショップは、慶應義塾大学「論理学とフォーマルオントロジー」オープンリサーチセンターとの共催によって実現したものである。

Mints 教授は数学基礎論（特に証明論）の分野を牽引してきた数学者であり、順序解析、構成主義数学から様相論理、線型論理のようないわゆる非古典論理までありとあらゆる分野で重要な業績を残してきた。特に、Mints 教授は Hilbert 以来の伝統的な証明論的手法である ε 代入法を大きく発展させた先駆者であるが、今回はその ε 代入法に関する最新の成果を二日にわたってレクチャーして頂いた。そのアイディアはモデル論的手法を ε 代入法に応用するというものであり、ε 代入法が非可述的な強い理論へと拡張できることが示された。この手法の特徴は Hilbert 以来の手法に比べると格段に理解がしやすいという点にある。

国内からは国立情報学研究所 (NII) の龍田真教授、千葉大学の新井敏康教授、沖縄科学技術研究基盤整備機構 (OIST) の Gunnar Wilken 博士、神戸大学大学院生江口直日氏を招きそれぞれに最新の研究成果をご報告頂いた。慶應義塾大学からは Mints 教授の指導の下、スタンフォード大学で博士を取られた白旗優准教授、当拠点串田裕彦博士、そして本稿執筆者秋吉亮太が研究報告を行った。

今回のワークショップの目的は、国内外から一流研究者を招き、活発な情報交換を行うことであり十分に達成されたと思う。また、Mints 教授は本稿執筆者の共同研究者および博士論文の査読者の一人でもあり、順序数を用いないカット除去法の展開、及び Gentzen 以来のカット除去の手法を ε 代入法に応用するという Mints 教授のアイディアについて議論してきた。今回の滞在中にこれらに関する共同研究を、さらに進めることができた。（秋吉亮太）

The workshop of proof theory was held at Mita Campus in which Professor Grigori Mints (Stanford University) gave two lectures on epsilon-substitution. We had active and fruitful discussions.